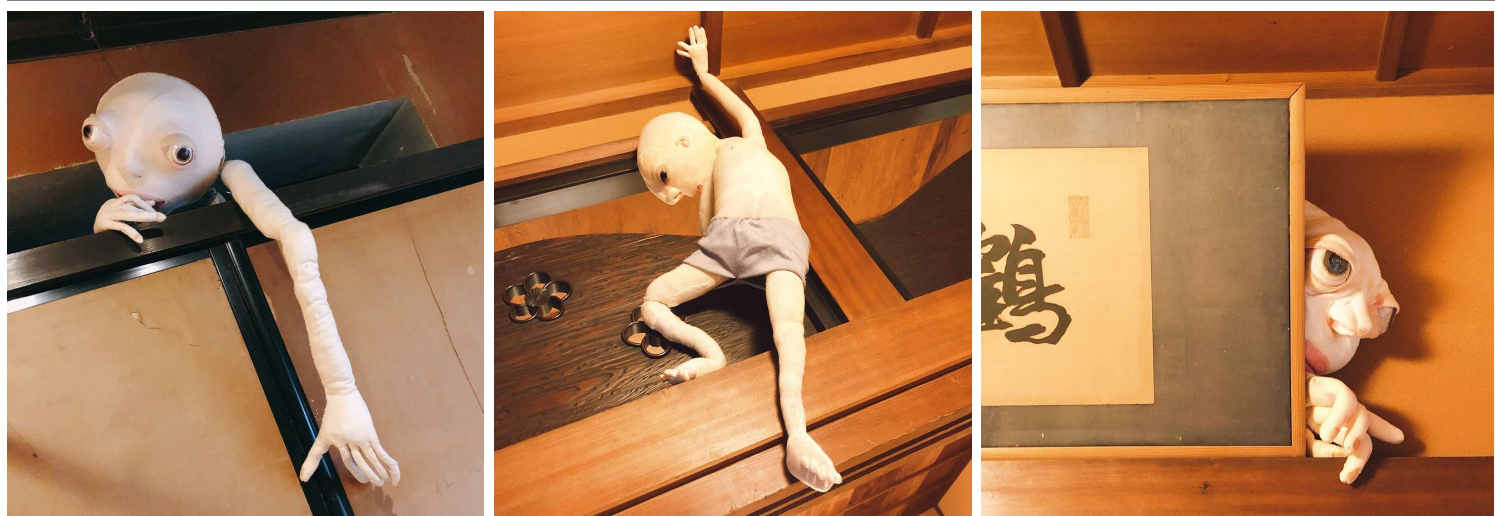


作品たちとの触れ合い

以身伝しんぶん

見上げてみよう



今回、第2会場となっている奥村家住宅。足を踏み入れれば、至る所に作品があり、驚かされる。とくに、クリクリとした大きな目と大きな体で、来場者を迎えてくれる人形が印象的である。作者の一人、鎌田紀子さんの作品だ。入り口から順番に部屋を進み、ひと通り見て回って落ち着いたら、ちよつと休憩がてら畳の上に座ってみよう。ひと思つてふと上を見上げてみると、頭上にも、鎌田さんの作品が。「ああ、ここにもいたのね」と思わず力が抜けて笑ってしまうだろう。築150年の邸宅の設えに、大家族が住んでいるような人形たちの賑わいが見事にコラボレーションし、一つの空間を作り出している。一見、奇抜な人形の特徴に不気味さも覚えるが、滞在中に何度も味わう人形との出会いは回数を重ねるごとにワクワクした気持ちへと変化し、愛着が生まれる。会場を出るときには、少しの寂しささえ感じてしまうほどである。

(記者 畑)

鎌田さんの作品 不思議な人形

ボランティアスタッフの事前研修が終わつて、玄関に出ようとしたら、階段にすわつていた人形が、とつぜんうごいた。心臓がドクドク。冷や汗がタラリ。よく見たら、この人形さんたちのつくり手の鎌田紀子さん。人形さんたちとマツチングしすぎ。いたずら心の鎌田さん。ニコニコわらいながら、驚かせて、ごめんね。そう言つて、また、もとの位置にもどつて、すみ顔。つぎのターゲットを待っている。鎌田さん、岩手から新幹線で5時間、人形さんたち

ちの晴れ姿おくりだすために、NOMA・奥村家へやってきた。あんなにここ、ここはあんなに座敷いっぱい、お好きなように、人形さんたちをすわらせたい。人形さんたちも、鎌田さんといっしょになつて、遊び心いっぱい。ほお紅を、人形さん、ひとりひとりつけて、おめかしして、また5時間かけて、鎌田さん、岩手にもどつたかな。夜になると、鎌田さん、岩手から、どう、たのしんでると、人形さんたちとおしゃべりしていきそう。あの日、鎌田さん、おもいだすと、なぜか、クスクス、わらいなくなる。おどろおどろしい人形さんたちだけ、なんともいえないユーモアが、おへそのあたりから、モクモク。あんなところに、こんなところ。人形さんたちといっしょに、おどろたくなる。となりにすわつて、ギョロ目、みんな、驚かしなくなる。鎌田紀子さん、はまつてしま

(記者 中島)



偶然の面白さ

10月7日(土) 晴れ11時よりNOMAの2階でボランティアシフト。三連休の中日。街にはビエンナーレのパンフレットを持った人がちらほら。お昼前、やっと人が来る。やはりビエンナーレと合わせて来られる方が多い。徳島のご夫婦。こ



双子ちゃん プリンちゃんの

10月10日(水)午後から奥村家でボランティアに入る。雨にも関わらずぼつぼつ来場者が来られる。突然「お！びっくりした」の声。金沢からの学生と教師の一群。元気な連中では双子のプリンちゃんは大人気。大阪から来られた三人。ひとわたり観て、知人と奥村家で待ち合わせしているのと入り口で待っている時、双子のプリン

ちゃんを囲み記念撮影。今日は神戸から来たと言う男女。(京都にも家がある)雨にも関わらず傘なしで庭の米田さんの作品をじっくりと観賞。座敷に置かれた作品でタッチのざらつきとすべすべの違いや指だけと手のひらの感触の違いなどを楽しまれる。「これ売ってるのかな？」帰りにやはり双子のプリンちゃんを記念撮影。ライトがプリンちゃんにしかあたってないためプリンちゃんの横に顔を



団体客35名が来場される。一気に会場が活気づく。女性にはやはり双子のプリンちゃんが注目を集めた。

(記者 竹間)

の仕事のついでに来た。古い街並が残っていてビックリ！前回はゆつくり出来なかったので楽しみデス。草薨さんの所で、作者が初日に来られた様子を話す。何の迷いも躊躇も無く圧倒的なスピードで制作されること、暖色系から寒色系へ、30色使い切つて「できた！」その間約30分。その時の作品が一階のウッドデッキの後ろに飾つてあると、お母さんが「こんな早いのは珍しい」と言われたことを伝える。そこから作品論？に、偶然の面白さをどう捕らえるのか、それを意識的に活かしてアートにするボロックの様な作品と草薨さんの叩き付ける迷いの無い楽しさで表現された作品の違いは？制作過程を知るとは作品を理解する上で重要なことですが、だからどつちだ？と言う訳にも行かず結論は、自分の感性にどちらが強烈に響くかと言うことにおちつきました。

(記者 竹間)



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら
https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club